平成２９年度　国立市立国立第二小学校　校内研究まとめ

平成 30 年 2 月

研究主題

自分の考えを形成し深め、豊かに表現することができる児童の育成

〈研究仮説〉

子供たちが考えや表現について目的やイメージをもち、必要な情報を得ることができれば、考えを形成し深め、表現することができる。

〈目指す児童像〉

低学年	中学年	高学年
自分の考えを自分なりの方法で表現することができる児童	進んで考えをもち、相手を意識して表現することができる児童	よりよい考えをもち、工夫して表現することができる児童

研究構想

主体的・対話的で深い学びの実現

他教科における「書く力」の活用（Ｈ３１年度）

国語科における「書く力」の習得と活用（Ｈ３０年度）

国語科における「書く力」の習得（本年度）

本年度の目指す児童像

自分の考えをもち、書き表すことができる児童

習得
★国語科「書くこと」の系統的指導
→指導・評価事項の系統表作成

具体的な手立て
（１）「自分の思いや考えをもつことができる」ための手立て
（２）「自分の書きたいことが相手に伝わるように書くことができる」ための手立て

活用
★各教科における横断的指導
★日常的な取り組みの実践
→「書く活動」を横断的に取り入れた各教科の年間計画作成

	低学年	中学年	高学年
目指す児童像	書きたいという思いをもち、自分の考えを順序良く書くことができる児童	相手や目的を意識して、自分の考えを工夫して書くことができる児童	目的や意図に応じて構成を考え、自分の考えを明確に書くことができる児童
具体的な手立て	**（１）「自分の思いや考えをもつことができる」ための手立て**		
	・１年生が説明書を見て、おもちゃを作ることができるように、「相手意識」と「目的意識」をはっきりさせる。 ・書くことの材料集め（取材）に力を入れる。（生活科で作った物を題材にする）	・発信する相手を地域の方や保護者にすることで、自分たちが新聞を作ることに対する興味・関心をもてるように題材を工夫する。 ・書くことの材料集め（取材）に力を入れる。 ・自分の意見や考えをもてるようにするために、グループでの交流を取り入れる。	・児童が興味関心をもって、書く事柄を収集できるようにするために、一人一人が意欲的に取り組んでいる活動を題材にする。 ・相手意識を明確にする。 ・書く事柄を十分に収集できるようにするために児童同士で情報交換する活動を取り入れる。
	（２）「自分の書きたいことが相手に伝わるように書くことができる」ための手立て		
	・モデル文等の学習を通して、どのような文を書くのか見通しをもたせる。 ・構成の段階で、書きたいことのメモを付箋にまとめ、順序やまとまりを整理しやすいようにする。	・記事を分かりやすく書くことができるようにするために、語彙力を増やしたり、文章を書くときに気を付けたりすることなどを書き留めたテクニックブックを作って活用する。 ・相手意識をしっかりもたせるようにするために、毎時間、誰に読んでもらう新聞か、何のために新聞をつくるのかを確認する。 ・主語と述語が合っているか、伝えたいことの中心がはっきりしているか、文末表現はそろっているかなどを確認できるように、推敲のポイントを明確にする。 ・友達と文章を読み合うことで、よい表現を発見し合い、互いに生かせるようにする。	・児童が見通しをもって書くことができるようにするために、複数の完成モデルを提示する。 ・児童が収集した内容を効果的に構成することができるようにするために付箋を用いて並び替えをする活動を取り入れる。 ・事実と考えを明確に区別して書くことができるようにするために、「～した。」「～だと思う。」などといった語尾の表現の仕方のポイントを掲示する。 ・推敲の段階で、文のねじれや説明不足、伝わりづらい言葉を書き換えられるようにするために、推敲のポイントを視覚的に提示する。
活用（実践例）	**各教科における活用**		
	・生活科「大きくなった自分のことをふりかえろう」では、構成を工夫して、自分の成長や、支えてくれた人への感謝の気持ちをまとめる活動を行った。 ・国語の単元の最後に、モデル文で学習したことを、活用する活動を取り入れた。	・総合的な学習の時間のまとめでは、点字や盲導犬のことについて発表するために原稿を作り、自分の思いや願いを伝えた。社会科の新聞では、各単元で学んだことやそこから考えたことを書いた。国語科で学習した感想の書き方を活用した。	・社会科の歴史学習のまとめでは、２０２０年東京五輪でアピールしたい日本の歴史についての意見文を書いた。国語科「未来がよりよくあるために」で学習した意見文の書き方を活用した。（６年） ・国語の「グラフや表を用いて書こう」では、初め・中・終わりの構成で自分の意見を書いた。「一枚の写真から」では、構成を自分で考え、物語を作った。（５年）
	日常的な取り組み		
	・算数や体育など授業の振り返りで、分かったこと、考えたことを意識して書く活動を取り入れた。 ・日記を日常的に書く取り組みを行った。（週に１回）	・行事終わりなどに感想を書く取り組みを行った。（学期に１～２回） ・宿題で、新聞の記事についての感想を書く取り組みを行った。（月に１回） ・朝会での校長講話の感想、自分の考えを書く取り組みを行った。（毎週月曜日の朝）	・自分の気持ちを作文用紙一枚に書く取り組みを行った。（週１回の宿題） ・朝会での校長講話の感想、自分の考えを書く取り組みを行った。（毎週月曜日の朝）
成果と課題	**成果**		
	・相手意識をもって、作文に取り組むことで、内容を明確にして書くことができるようになった。 ・自分が実際に作った物を題材にしたことで、メモの段階から意欲的に書くことができた。	・テクニックブックを活用して書き方を確認したことで、自信をもって書き始めることができた。 ・友達との交流を通して自分が書いた文章を認め合うことで、前向きに書けるようになった。	・明確な相手意識をもち、意図に応じて、伝えたい事柄を整理して書くことができるようになった。 ・型を示さなくても、自分の考えや意見を書いて表現することができるようになった。
	課題		
	・文章を読み返して、間違いを正す等推敲の力をつけるのが難しかった。日常的に正しい表記に対する意識付けをしていく必要がある。	・目的意識や相手意識をもてているかどうかを見取ることができなかった。書くときだけでなく、取材のときにも確認する必要がある。 ・型にはめ過ぎずに子供たちが書けるようになることが今後の課題である。	・自分の考えに自信をもてていない児童がまだ多くいる。児童同士の評価、認め合う時間の確保が今後の課題である。